

信 每 歌 壇

米川千嘉子選

夫逝きて木々と交わるすべを知る私を通して病み泣く樹林 (木祖村) 佐々木千代子
 我が腎を移植せし夫の診察日ワレアチニん値を身回くして聞く (駒ヶ根市) 堀沢 春子
 朝五時が推定時刻横に寝る母にもいわず父は逝きたり (長野市) 原田りえ子
 吾子のある会社のCM流ればテレビの前に駆け寄りて見る (飯綱町) 坂井 寿男
 文相の更迭拒む岸田氏のにぎりこぶしはなんのいかりぞ (長野市) せきたつお
 視力失せし眼に光ほし梅の香の流れておれば花の見たくて (千曲市) 上原 博司
 病む夫に秘策の浮かぶはずもなく継承者なき墓所の春宵 (飯山市) 市村紀久子
 孫傭り庭にちよこんと雪たるまふチトマトの目三ンジンの鼻 (東御市) 広沢里枝子
 川岸に芽吹く柳の青葉にも吾にも宿る春の苦みよ (千曲市) 中村 美樹
 籠持ちて雪の降る前菜つ葉採る凍み按配もしめしめ良きに (小諸市) 尾沼美枝子

佳作
 笑み浮かべ幼子を抱く母の声この世の人は皆優しいと (千曲市) 石黒 信幸
 連れ添いて七十年の夫逝き夫といた茶の間に一人ぼっち (伊那市) 松崎りつ子

選評

第一首、自身の病のつらさや泣きたい悲しみは同じ生命としての木々のそれでもある。そのことを夫亡きのちに知り、「木々と交わるすべを知る」とも。すばらしい一首。第二首、夫に移植したわが腎

臓の責任を感じているのか。リアルでこれも印象深い。第三首、前回父母でデイサービスに行った歌を選んだばかり。突然のことで母も家族もつらいだろう。第四首、子供が何歳でも親は「前に駆け寄り

小池 光選

スカーフはシルバークレイ蓋微つけて九十の吾れ歌会にゆく (千曲市) 倉石みつる
 雪道を譲りてくれし少年の自転車見送る角まがるまで (長和町) 羽毛田 栄
 父の足の指一本ずつ湯舟にて洗いやりたり義父にせし如 (長野市) 原田りえ子
 土俵見上げる綺麗どころのお姐さん浅葱の着物はもう春の色 (飯山市) 小野沢竹次
 銭湯で飲んだコーヒー牛乳は価千金昭和の極楽 (長野市) 宮沢 信博
 革製のグローブはじめて買ひくれしあれは中宇進学の春 (箕輪町) 向山 政俊
 雪とけす今日はシャベルで雪移動こんなときだけ男がほしい (千曲市) 関 津和子
 大勢の中に入れずなき続けついに中退幼稚園の吾 (中野市) 増田きみ江
 白く太き大根が土より身を晒す柔らかな陽の雪どけの畑 (長野市) 近藤 光子
 登校の挨拶はいつもこんばんは夜学生来る五時二十分 (佐久市) 高橋衣里子

佳作
 雪布団はねのけ咲くや福寿草春が地下から押し上げてくる (下條村) 福嶋田鶴子
 ところろ汗擦れば擦る程美味しいと母の使いし欠けたすり鉢 (山形村) 中村 恵子

選評

第一首、90歳になって歌会に行くのは立派。おしゃれて行くのはさらにも立派。年輪を重ねるとおしゃれということが大切になるような気がする。第二首、これも高齢の方。雪道を譲ってくれた少

年の自転車を見送る。老人と少年のあいだにあなたかい心の交流がある。第三首、おいたる父の足指を1本ずつ洗う。この1本ずつというところがねんごろで印象に残る。父は、しあわせである。

小島 なお選

なきがらの父は冷えゆく地の底のえたいのしれぬおそろしきもて (長野市) 原田りえ子
 感星は整列が好き月冴える選番保育室から子らと見上げる (群馬県昭和村) 須藤 俊哉
 アインシュタインのピアノは復活し吾のピアノは引き取られゆく (上田市) 矢島 美穂
 土砂の下から救い出されし書腕両手で包めば祈りの姿 (東御市) 広沢里枝子
 親と別れ友と別れてはるばると温泉の雪のしずけさ見つむ (長野市) 西村満知子
 ボロボロドール遺跡の前に立つ吾等あれからササ一ツと時間流れて (佐久市) 臼田宇多子
 新雪は足跡の印を残すランナーの折り返しの地点 (下諏訪町) 立石 理
 寄せ鍋の湯気の向こうに母の顔白菜とろけよろよるになり (中野市) 増田きみ江
 雪景色雪は面用紙の白生かす講師の助言はれてみれば (長野市) 西本 真琴
 老いし吾の指の代りに蓋開ける大中小の器具が幾つも (長野市) 橋詰貴世子

佳作
 真夜中の浅間風の凄まじき庭に転げるものを案ずる (小諸市) 星野 直人
 ボケモンのピンクのノート使いかけのきの一句を書き写しおくり (松本市) 川久保恵子

選評

第一首、この世ならざる世へ引き下ろされてゆく父の身体。底知れない冷たさの表現に実感がこもる。第二首、整列する星々と、親を待つ子どもたちの心。呼び合うようなきらめきがある。第三首、アイン

シュタインが100年前に弾いたという奈良ホテルのピアノが修繕された。人と同じくピアノにも運命がある。第四首、膨らんだ書がほころぶかたちの書腕。包む両手のなかには守るべきものがある。